

萩医療圏病床機能等医療のあり方検討部会（平成29年度第1回）議事概要

【日時】平成29年7月3日（月）19:00～20:30

【場所】萩地域医療連携支援センター 2F研修室

【出席者】市医師会長、病院関係者、市町担当者、県医師会担当理事 等

- 各病院が、現状・課題、病床機能の今後の方針等について意見交換を行い、回復期機能への転換、療養病床の転換を検討していること等を共有した
- 「圏域で中核となる病院」の検討が何よりも重要であるとの意見が複数あった

【議事内容】

1 医療介護総合確保基金について（報告）

事務局から平成27年度及び28年度の事業採択状況を報告し、県医療政策課から、今年度から設備整備だけでなく施設整備も対象に加えたこと等を補足説明

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

2 平成28年度病床機能報告の結果について（報告）

事務局から萩医療圏の平成28年度病床機能報告結果（医療療養から回復期への病床転換を表明した病院あり）を説明

（主な意見・質問等）

○ リハビリテーションを提供してなくても認められる回復期機能とは具体的にどのような治療をいうのか、わかりにくい

→ 今後、適時、国の考え方を確認し、情報提供するように努める

（県医療政策課）

3 病床機能等医療のあり方検討部会設置要綱(案)の改正について（協議）

事務局から部会設置要綱改正案の概要（部会名の変更及び協議事項の追加）及び今後開催する地域医療構想調整会議で諮る旨を説明

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

4 平成29年度検討部会について（情報提供）

県医療政策課から平成29年度検討部会の協議内容、スケジュール等について県の考え方を説明

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

5 慢性期の入院患者の患者像について（情報提供）

県医師会から療養病床及び地域包括ケア病床の入院患者像、退院する上での課題等に関する調査結果について報告し、医療・介護の連携や、地域における役割分担が重要であることを説明

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

6 病床機能の転換、今後の検討テーマ等について（意見交換）

事務局から、菟園域の各病院の標榜する診療科、医療内容などといった観点から病院機能の特色について話題提供を行った上で、各医療機関から自院の病床機能に係る方向性等について、現時点での考え方を報告

（各病院からの意見）

— 病床転換関係 —

- ・回復期への機能転換を検討している（複数）
- ・入院患者の医療の必要度等を見極めつつ、療養病床の一部減床、介護療養病床の介護医療院への転換について、診療報酬の改定動向を踏まえ、転換の時期や規模を決定する（複数）
- ・長期入院患者に対して、退院後の受け皿となる居場所づくりをもっと進めないと退院に繋がらない。受け皿があれば病床数の見直しも加速する
- ・圏域の一般病院に血液内科が必要（抵抗性の統合失調症に効果のあるクロザピンを処方するための必須要件）

— 検討部会のテーマ関係 —

- ・菟医療圏域に欠けている「中核となる病院」の具体的なイメージを確定してもらいたい。市民にこのことを理解してもらうことも重要。イメージがあれば連携や役割分担する各病院の病院機能や病床機能が決まる。急性期機能をもつ病床規模の大きい病院同士で「中核となる病院」の検討を進めて頂きたい（複数）
- ・病床機能の見直しは住民患者の意向が重要で自院は受け身にならざるを得ない。急性期から慢性期までの患者の（入院・転院・退院といった）流れを良くするためには急性期の病院が話をリードするのではなく、全ての病院が一緒に病院機能のあり方を検討すべき